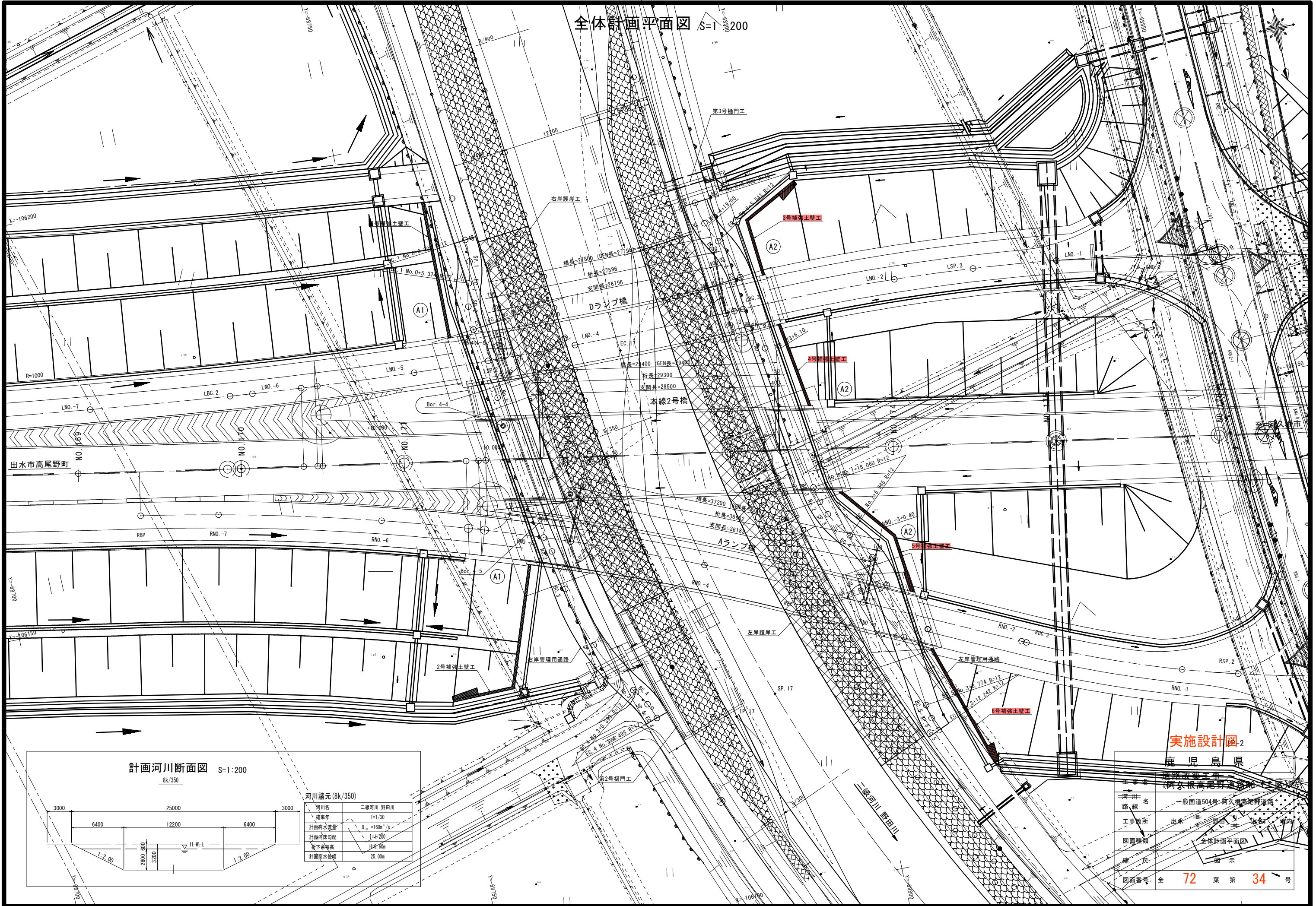
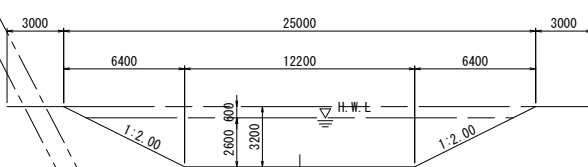


全体計画平面図 S=1:200



計画河川断面図 S=1:200

8k/350



河川諸元 (8k/350)

河川名	二級河川 野田川
標準年	T=1/30
計画洪水流量	$Q_m = 160m^3/s$
計画河床勾配	1:4/200
河下余裕高	1.00m
計画洪水位幅	25.00m

実施設計図₂

鹿児島県

道路建設課

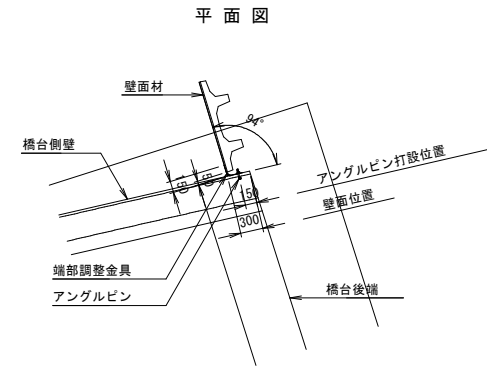
阿久根高尾野田河川

河川名	一般国道504号 阿久根高尾野田河川
工事箇所	出水 野田川 市内
図面種類	全体計画平面図
縮尺	図示
図面番号	全 72 葉 第 34 号

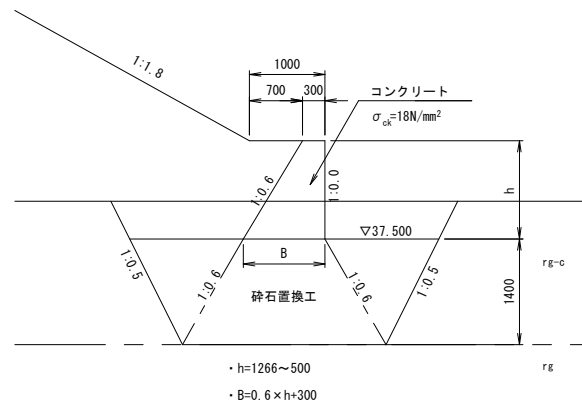
補強土壁工 (その5)

(3号補強土壁工)

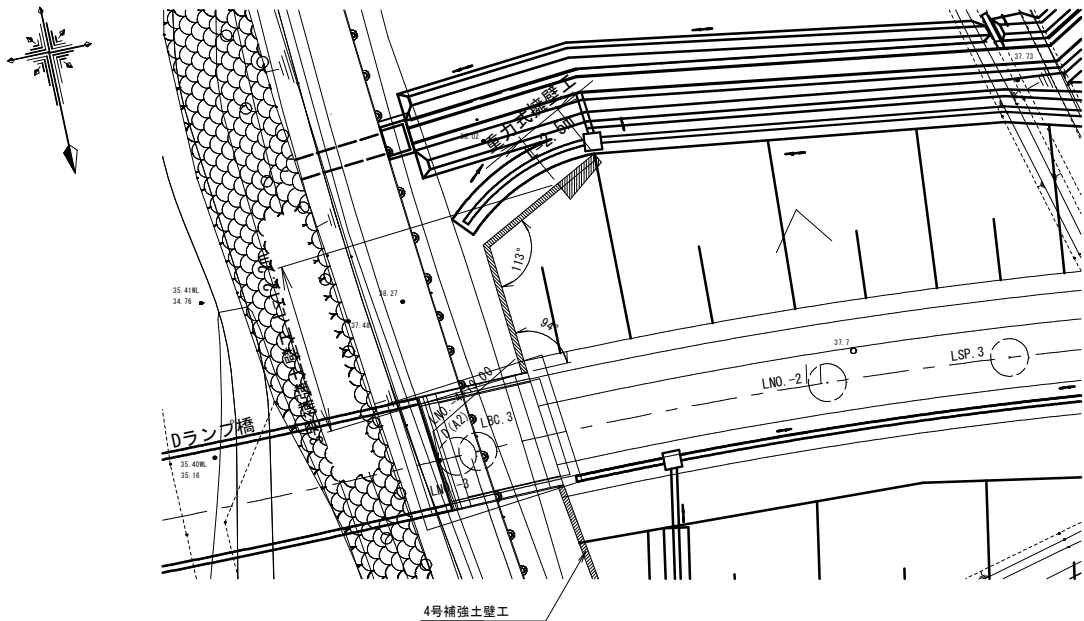
端部調整金具取付位置図 S=1:50



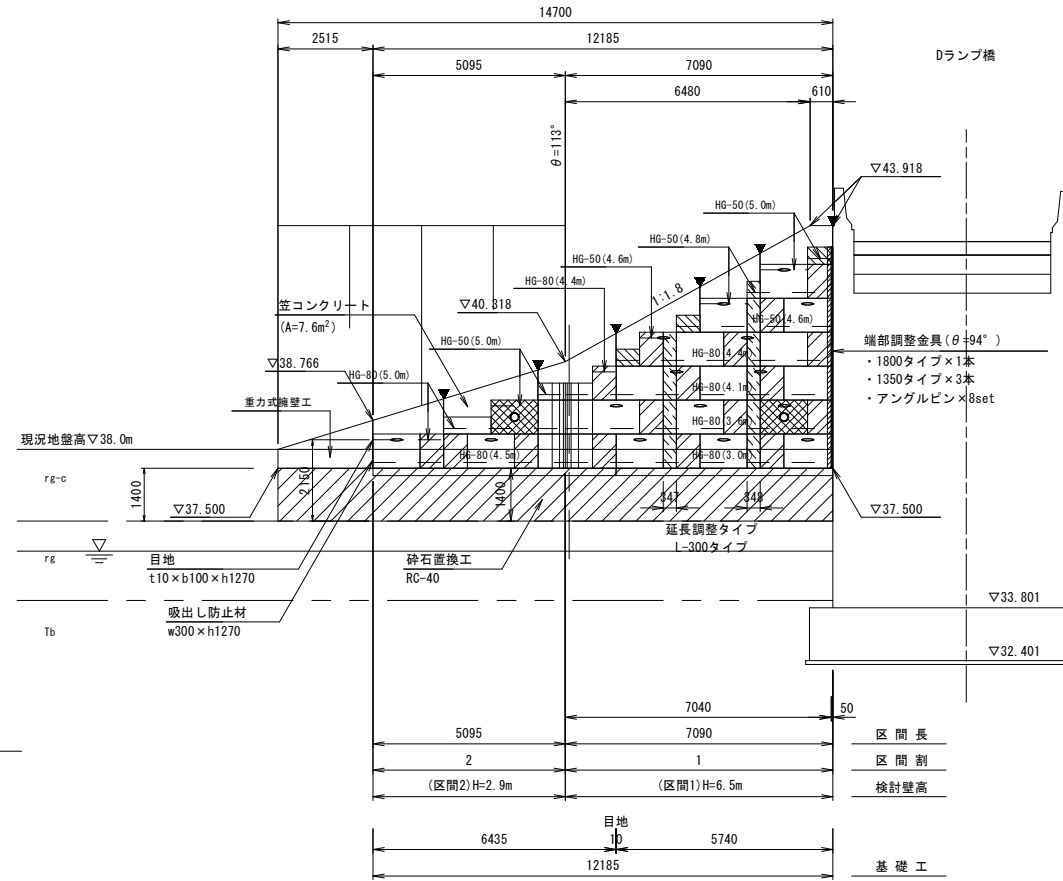
重力式擁壁工標準断面図 S=1:50



平面図 S=1:200



展開図 S=1:100



DL=30.00

DL=30.00

凡例

壁面材		AP-900AR タイプ (W1250×H900)
		AP-900AR 穴あきタイプ (W1250×H900)
		AP-900VH タイプ (W1250×H450)
		AP-900BH タイプ (W625×H900)
		AP-900SQ タイプ (W625×H450)
		AP-900LR タイプ 長さ調整用タイプ
		AP-900LH タイプ 長さ調整用タイプ
		AP-900CR タイプ 角度調整用タイプ
		AP-900CH タイプ 角度調整用タイプ
	補強材	
排水材		エンドレンフィルター (EF-3)
目地材		t=10mm

補強材設置位置凡例

設置位置	展開図	断面図
上段		
中段		
下段		

設計条件

盛土材定数	$\gamma=19.0\text{kN/m}^3$ $\phi=30^\circ$ $C=0.0\text{kN/m}^2$	
補強材の摩擦補正係数	$\alpha_1=0.00$, $\alpha_2=1.00$	
載荷重	活荷重 $q=10\text{kN/m}^2$	
設計水平震度 (L2地震動・1種地震) (地域区分: C地域)	内的安定	$kh=0.11$
	外的安定	$kh=0.08$ ($\nu=0.7$ 考慮)
	全体安定	$kh=0.11$
安全率の種類	設計安全率	
	常時	地震時
引抜きに対する安全率	$F_s \geq 2.00$	$F_s \geq 1.20$
転倒に対する安全率	$e \leq B/6$	$e \leq B/3$
滑動に対する安全率	$F_s \geq 1.50$	$F_s \geq 1.20$
極限支持力に対する安全率	$F_s \geq 3.00$	$F_s \geq 2.00$
円弧すべりに対する安全率	$F_s \geq 1.20$	$F_s \geq 1.00$

※「アデムウォール(補強土壁)工法設計・施工マニュアル(平成26年9月)」
 ※ 施工前に盛土材の土質試験を実施し設計定数の確認を行うこと。

地盤反力度

区間	検討高	単位	常時	地震時
1	H=6.5m	kN/m ²	174.7	175.7
2	H=2.9m	"	96.1	97.0
重力式擁壁	H=1.3m	"	39.2	49.9

※最大値

※各断面において上記に示す値以上の許容支持力度を確保すること。

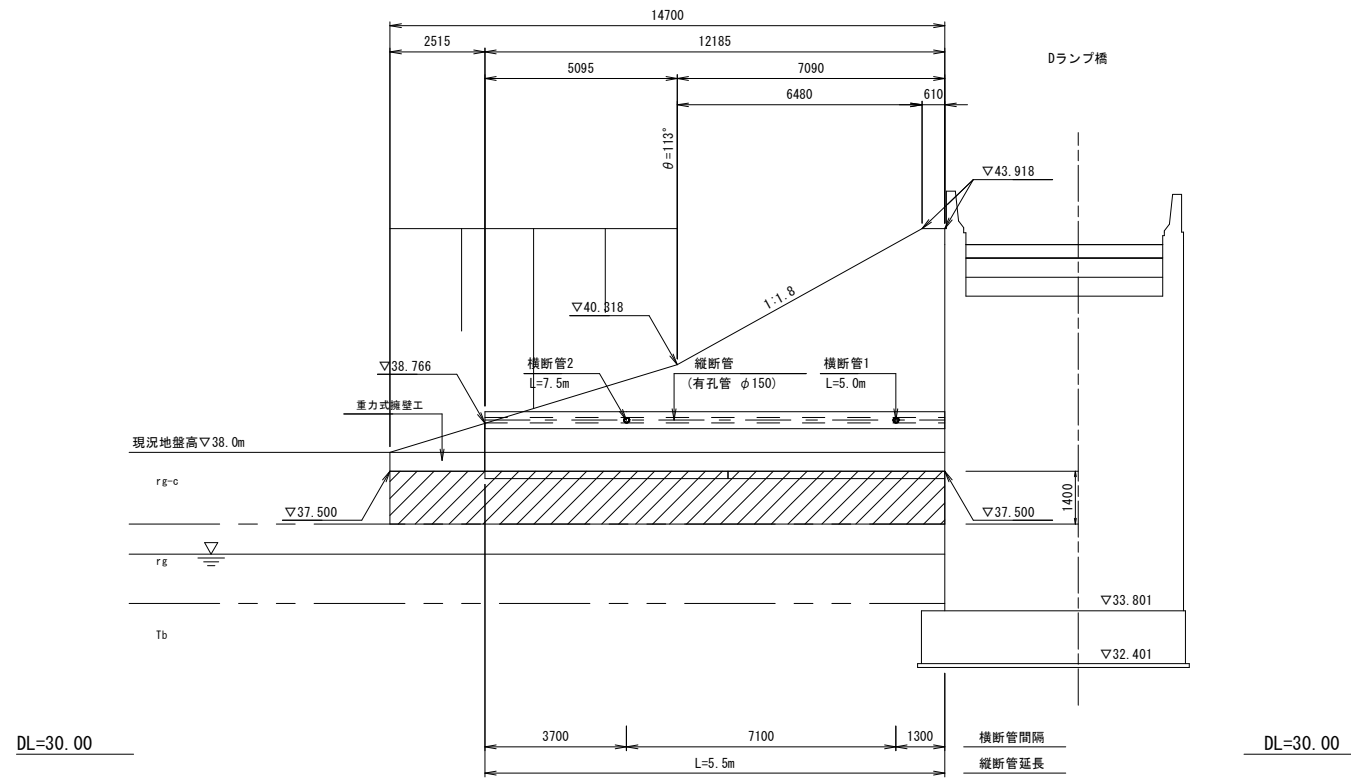
実施設計図

鹿児島県	
工事名	道路改築工事 (阿久根高尾野道路R8-1工区)
河川名	一般国道504号 阿久根高尾野道路
工事箇所	出水市 野田町 上名 地内
図面種類	補強土壁工 (その5)
縮尺	図示
図面番号	全 72 葉 第 35 号

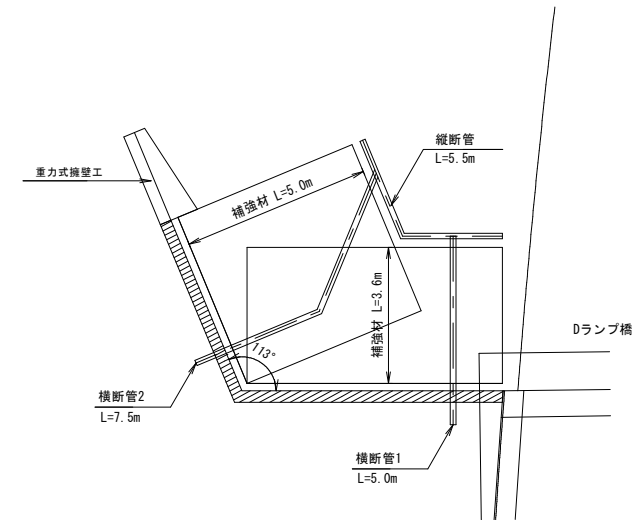
補強土壁工 (その6)

(3号補強土壁工)

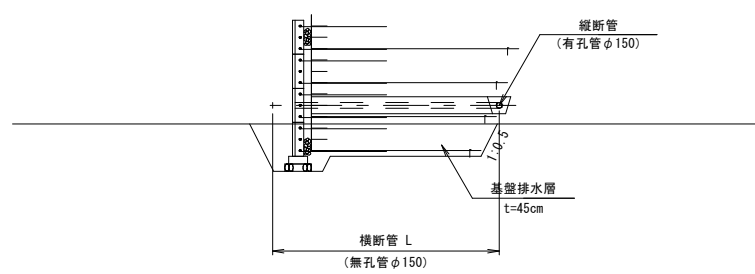
排水対策図 S=1:100



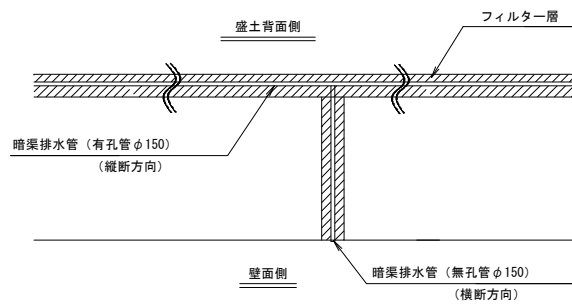
縦断管配置平面図 S=1:100



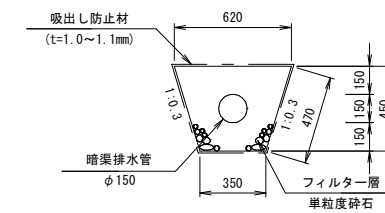
標準断面図 S=1:100



排水計画 平面図



暗渠排水管詳細図 S=1:20



実施設計図

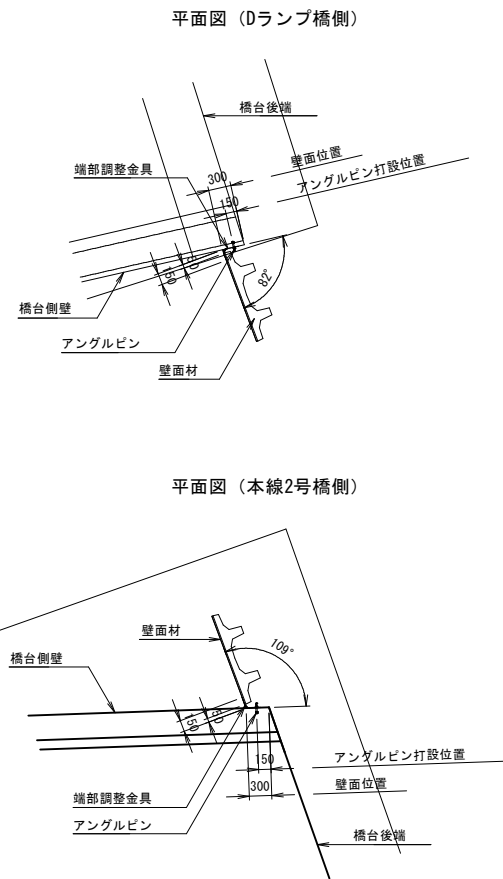
鹿 児 島 県

工事名	道路改築工事 (阿久根高尾野道路R8-1工区)
河川名	一般国道504号 阿久根高尾野道路
工事箇所	出水 市 野田 町 上名 地内
図面種類	補強土壁工 (その6)
縮 尺	図 示
図面番号	全 72 葉 第 36 号

補強土壁工 (その7)

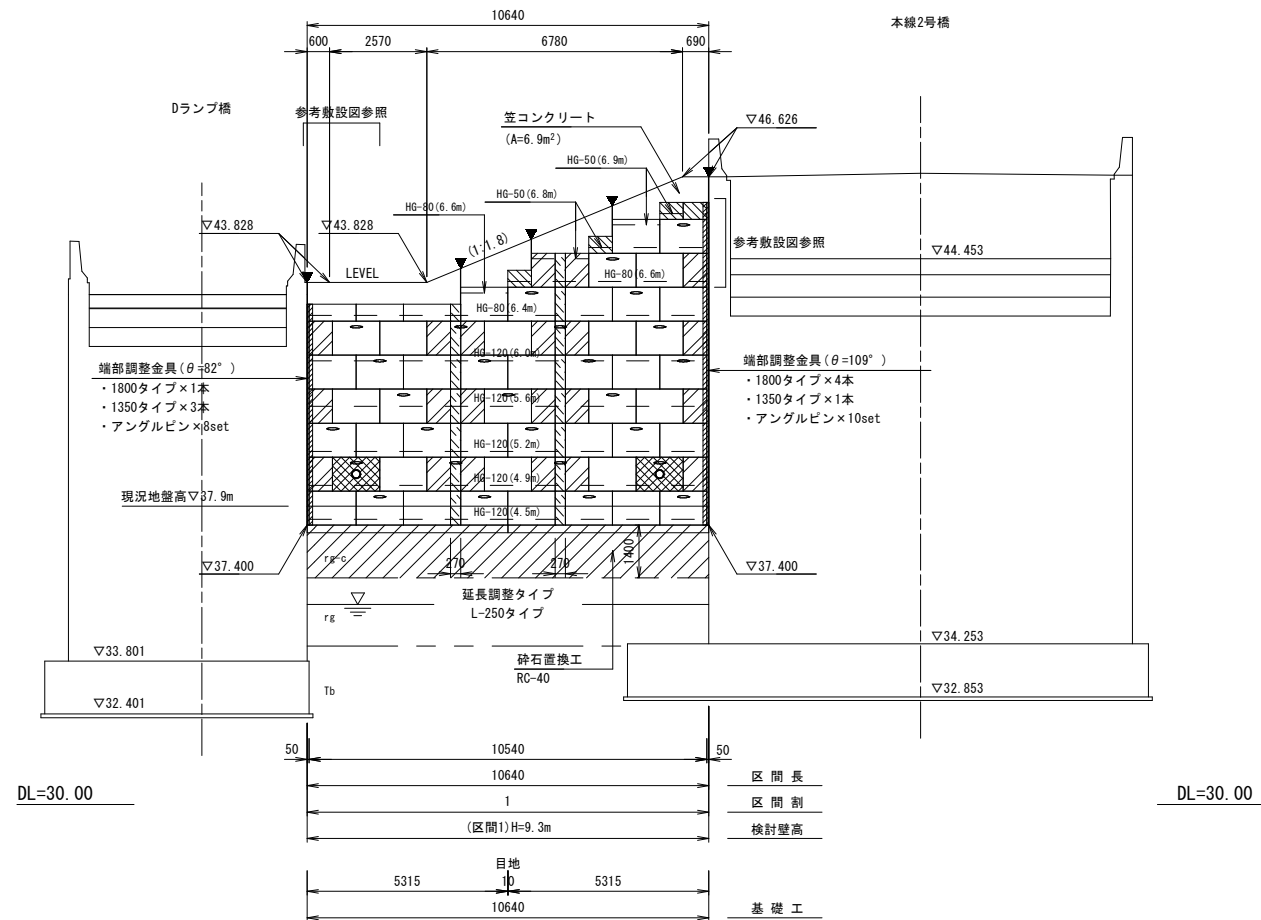
(4号補強土壁工)

端部調整金具取付位置図 S=1:50



平面図 S=1:200

展開図 S=1:100



凡例

壁面材		AP-900AR タイプ (W1250×H900)
		AP-900AR 穴あきタイプ (W1250×H900)
		AP-900VH タイプ (W1250×H450)
		AP-900WH タイプ (W625×H900)
		AP-900SD タイプ (W625×H450)
		AP-900LR タイプ 長さ調整用タイプ
補強材		アデム (主補強材)
		AP-900LH タイプ 長さ調整用タイプ
排水材		エンドレンフィルター (EF-3)
目地材		t=10mm

補強材設置位置凡例

設置位置	展開図	断面図
上段		
中段		
下段		

設計条件

盛土材定数	$\gamma=19.0\text{ kN/m}^3$ $\phi=30^\circ$ $C=0.0\text{ kN/m}^2$	
補強材の摩擦補正係数	$\alpha_1=0.00$, $\alpha_2=1.00$	
載荷重	活荷重 $q=10\text{ kN/m}^2$	
設計水平震度 (L2地震動・1種地盤) (地域区分: C地域)	内的安定	$kh=0.11$
	外的安定	$kh=0.08$ ($\nu=0.7$ 考慮)
	全体安定	$kh=0.11$
安全率の種類	設計安全率	
引抜きに対する安全率	常時	$F_s \geq 2.00$
	地震時	$F_s \geq 1.20$
転倒に対する安全率	常時	$e \leq B/6$
滑動に対する安全率	常時	$F_s \geq 1.50$
	地震時	$F_s \geq 1.20$
極限支持力に対する安全率	常時	$F_s \geq 3.00$
円弧すべりに対する安全率	常時	$F_s \geq 1.20$
	地震時	$F_s \geq 1.00$

※「アデムウォール(補強土壁)工法設計・施工マニュアル(平成26年9月)」
 ※ 施工前に盛土材の土質試験を実施し設計定数の確認を行なうこと。

地盤反力度

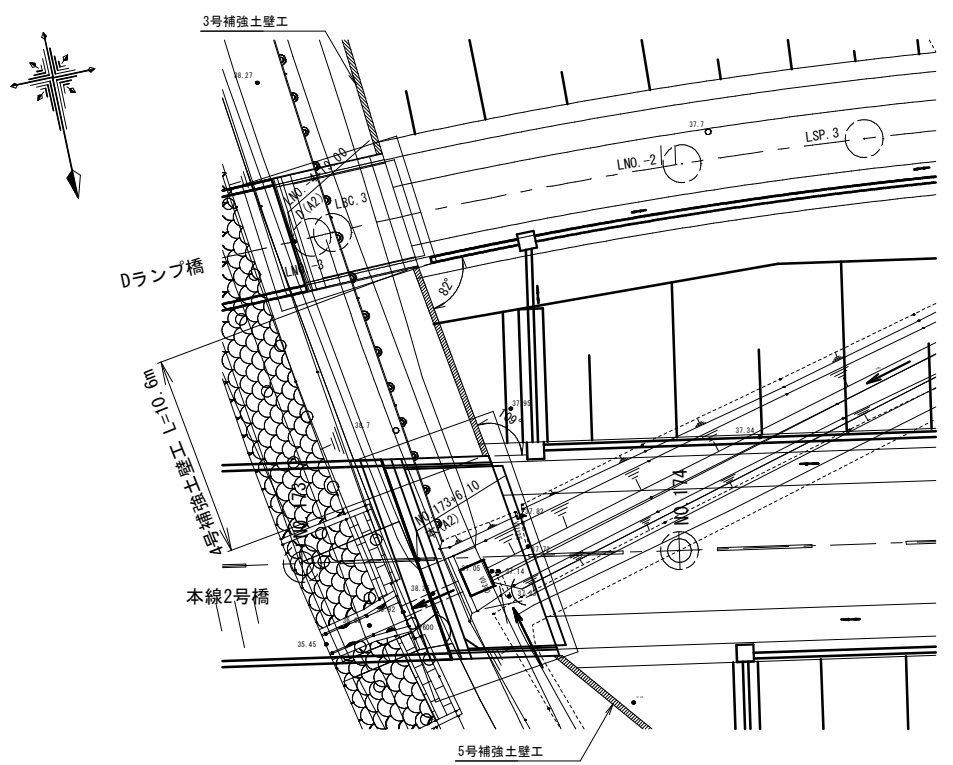
区間	検討高	単位	常時	地震時
1	H=9.3m	kN/m ²	237.2	239.2

※上記に示す値以上の許容支持力度を確保すること。

実施設計図

鹿児島県

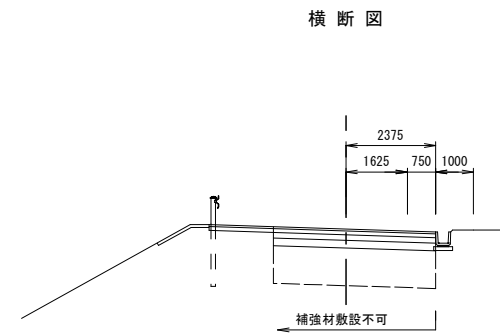
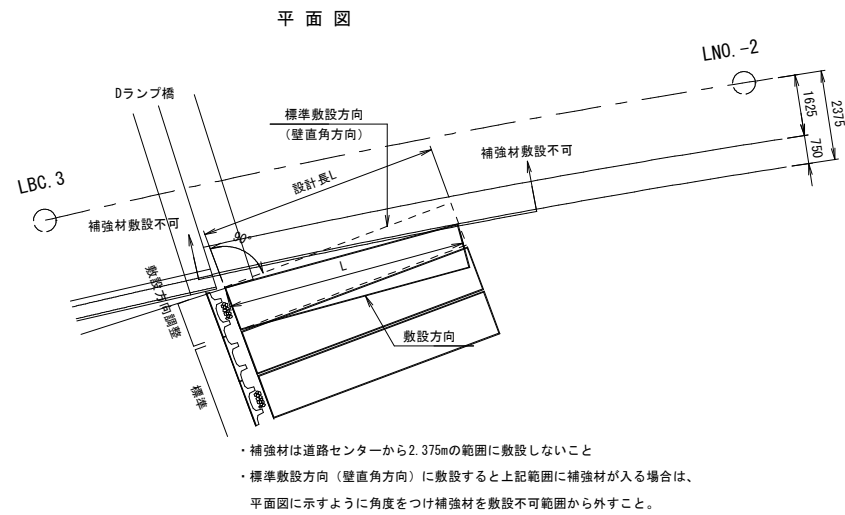
工事名	道路改築工事 (阿久根高尾野道路R8-1工区)
河川名	一般国道504号 阿久根高尾野道路
工事箇所	出水市 野田町 上名 地内
図面種類	補強土壁工 (その7)
縮尺	図示
図面番号	全 72 葉 第 37 号



補強土壁工 (その8)

(4号補強土壁工)

Dランプ橋側部参考敷設図 S=1:100



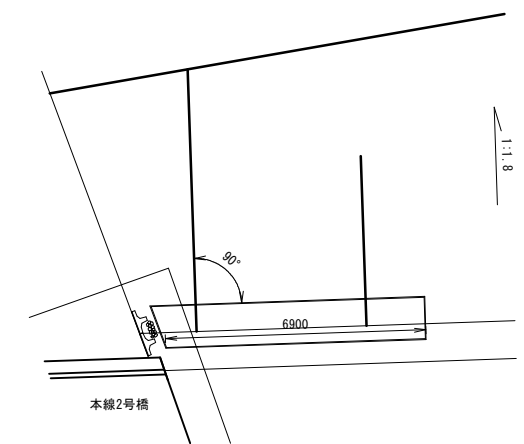
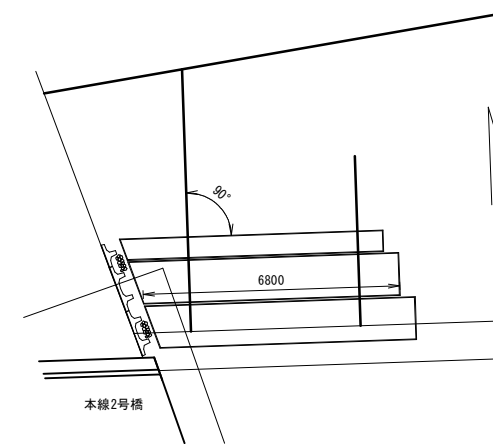
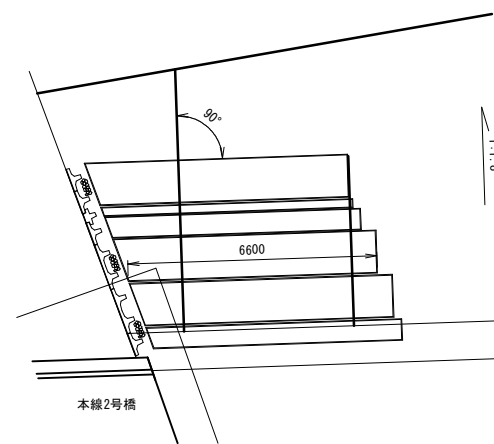
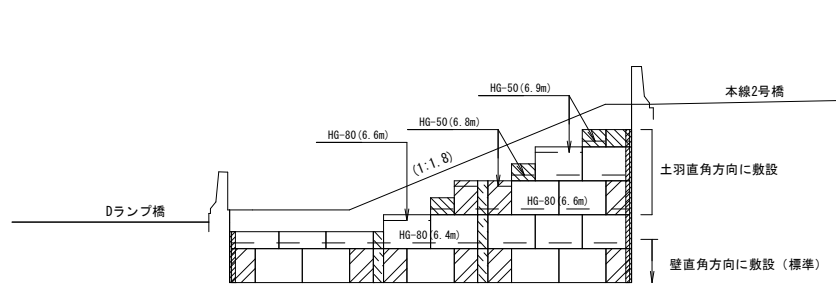
本線2号橋側部参考敷設図 S=1:100

展開図

補強材長 L=6.6m

補強材長 L=6.8m

補強材長 L=6.9m



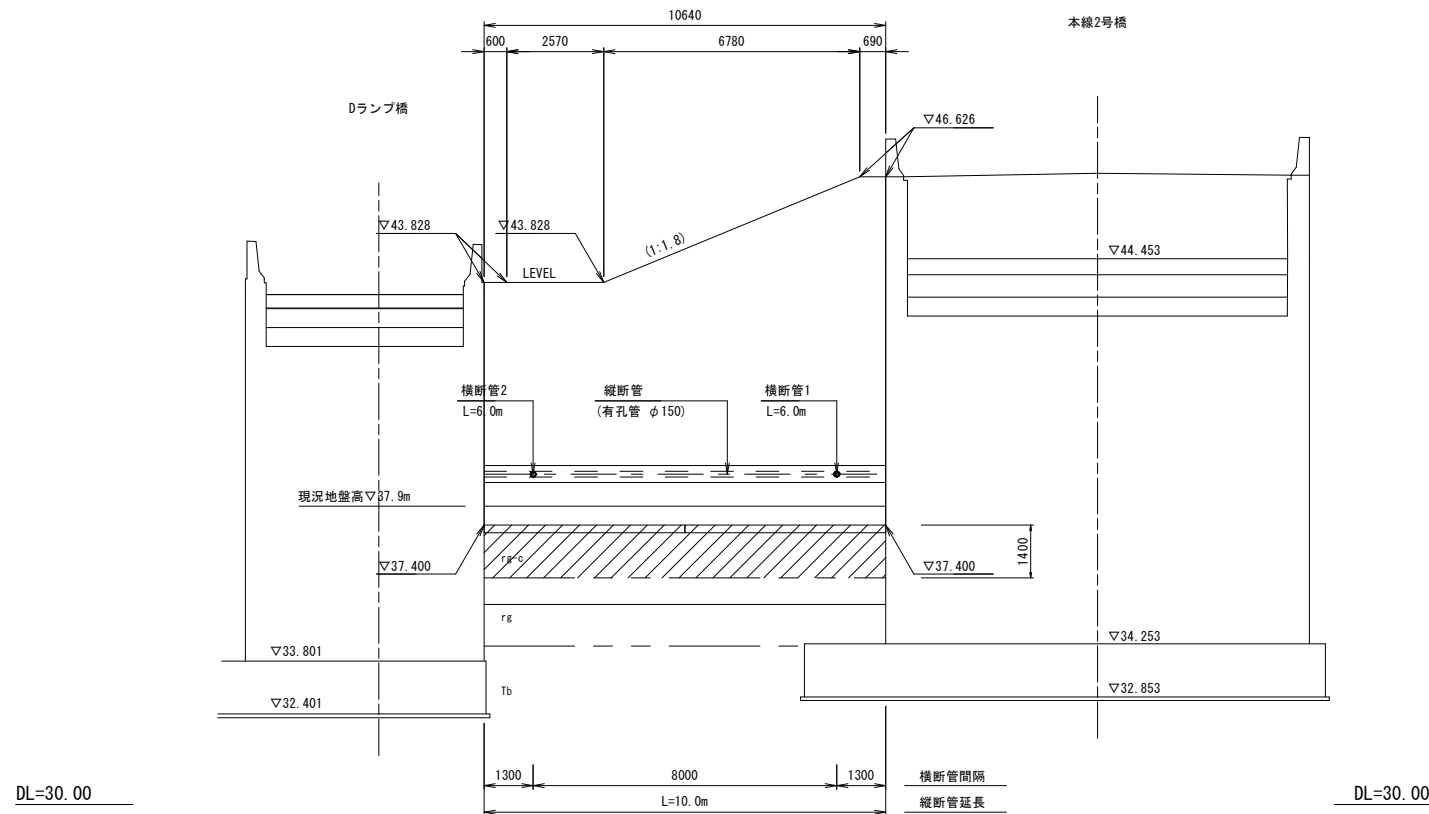
実施設計図

鹿 児 島 県	
工事名	道路改築工事 (阿久根高尾野道路R8-1工区)
河川名	一般国道504号 阿久根高尾野道路
工事箇所	出水 市 野田 町 上名 地内
図面種類	補強土壁工 (その8)
縮 尺	図 示
図面番号	全 72 葉 第 38 号

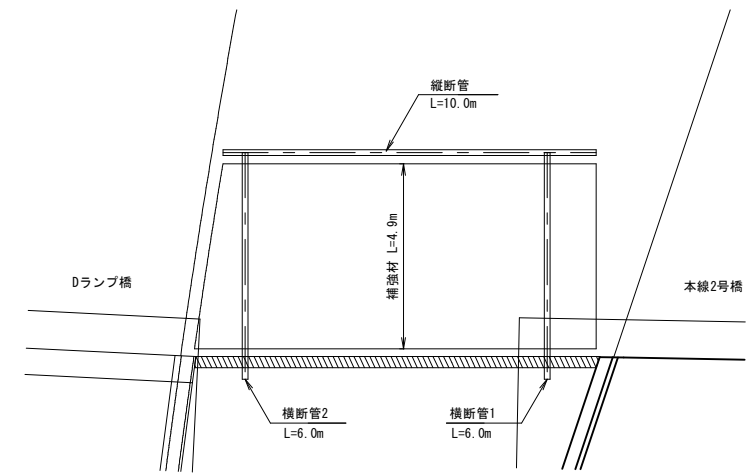
補強土壁工 (その9)

(4号補強土壁工)

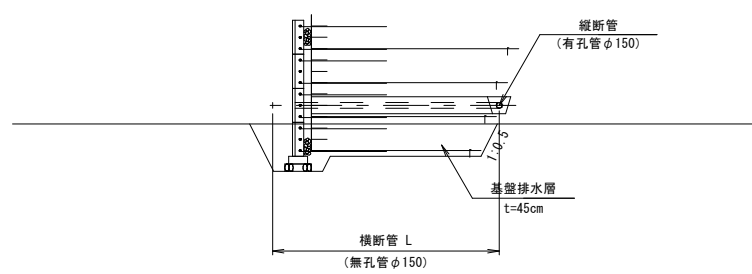
排水対策図 S=1:100



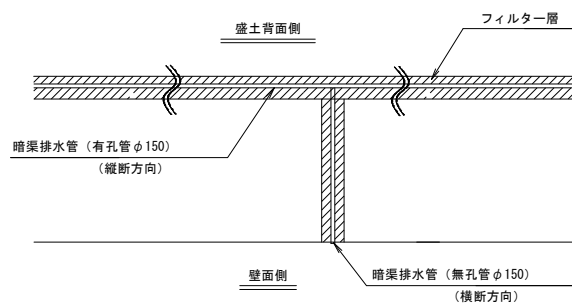
縦断管配置平面図 S=1:100



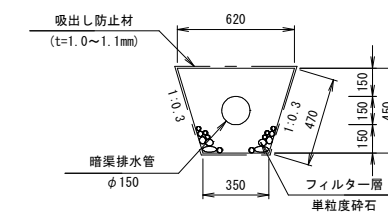
標準断面図 S=1:100



排水計画 平面図



暗渠排水管詳細図 S=1:20



実施設計図

鹿児島県

工事名	道路改築工事 (阿久根高尾野道路R8-1工区)
河川名	一般国道504号 阿久根高尾野道路
工事箇所	出水市 野田町 上名 地内
図面種類	補強土壁工 (その9)
縮尺	図示
図面番号	全 72 葉 第 39 号

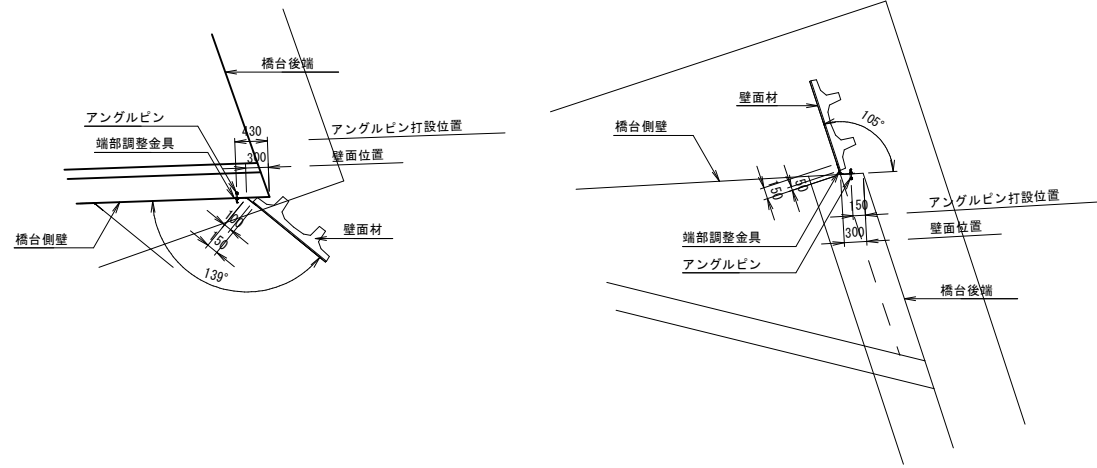
端部調整金具取付位置図 S=1:50

補強土壁工 (その10)

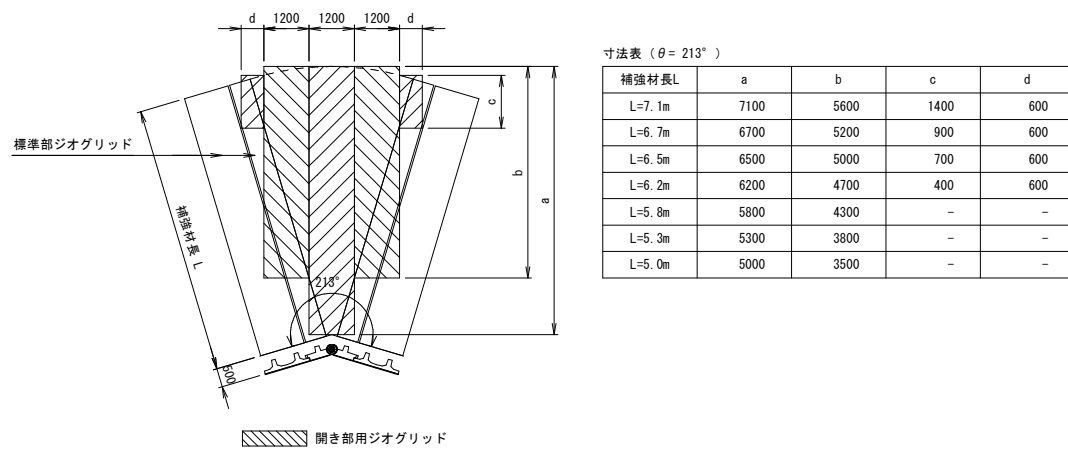
(5号補強土壁工)

平面図 (本線2号橋側)

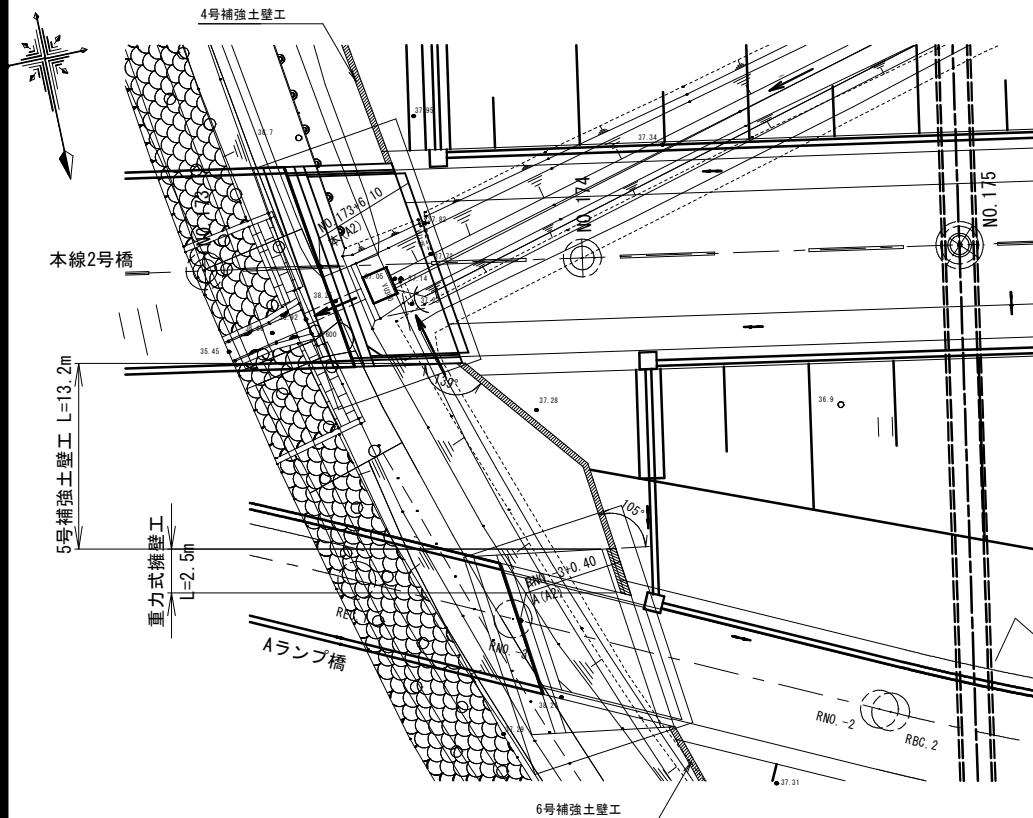
平面図 (Aランプ橋側)



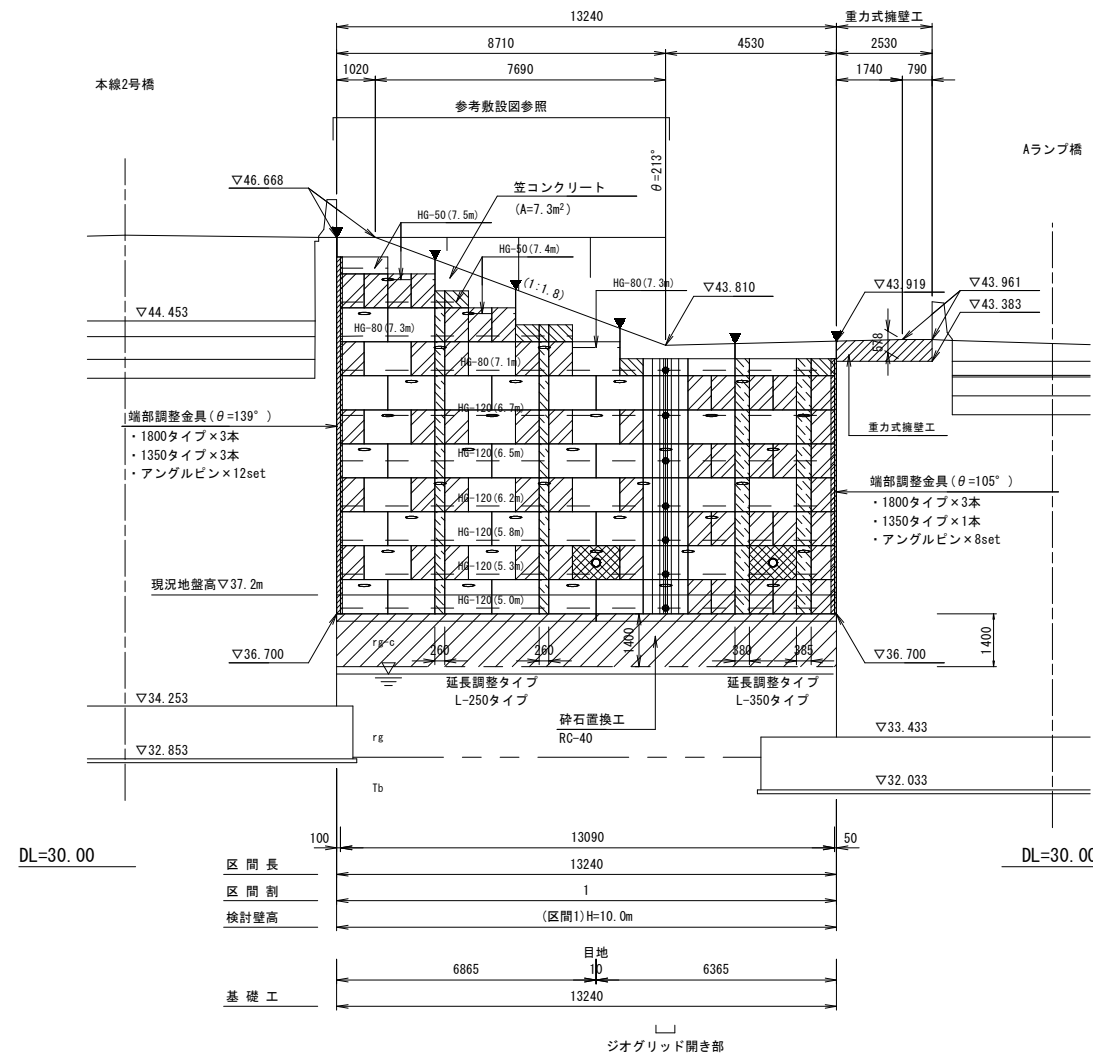
ジオグリッド開き部敷設図 S=1:100



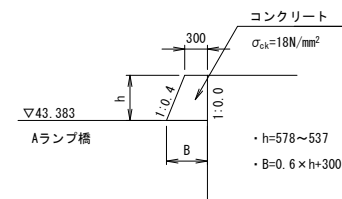
平面図 S=1:200



展開図 S=1:100



重力式擁壁工標準断面図 S=1:50



設計条件

盛土材定数	$\gamma=19.0\text{ kN/m}^3$ $\phi=30^\circ$ $C=0.0\text{ kN/m}^2$	
補強材の摩擦補正係数	$\alpha_1=0.00$, $\alpha_2=1.00$	
載荷重	活荷重 $q=10\text{ kN/m}^2$	
設計水平震度 (L2地震動・I種地盤) (地域区分: C地域)	内的安定	$kh=0.11$
	外的安定	$kh=0.08$ ($\nu=0.7$ 考慮)
	全体安定	$kh=0.11$
安全率の種類	設計安全率	
引抜きに対する安全率	常時	$F_s \geq 2.00$
	地震時	$F_s \geq 1.20$
転倒に対する安全率	常時	$e \leq B/6$
地震時		$e \leq B/3$
滑動に対する安全率	常時	$F_s \geq 1.50$
地震時		$F_s \geq 1.20$
極限支持力に対する安全率	常時	$F_s \geq 3.00$
地震時		$F_s \geq 2.00$
円弧すべりに対する安全率	常時	$F_s \geq 1.20$
地震時		$F_s \geq 1.00$

※「アダムウォール (補強土壁) 工法設計・施工マニュアル (平成26年9月)」
 ※ 施工前に盛土材の土質試験を実施し設計定数の確認を行なうこと。

地盤反力度

区間	検討高	単位	常時	地震時
1	H=10.0m	kN/m ²	250.6	252.8
重力式擁壁	H=0.6m	"	13.5	11.7

※各断面において上記に示す値以上の許容支持力度を確保すること。

凡例

壁面材		AP-900AR タイプ (W1250×H900)
		AP-900AR 穴あきタイプ (W1250×H900)
		AP-900VH タイプ (W1250×H450)
		AP-900BH タイプ (W625×H900)
		AP-900SQ タイプ (W625×H450)
		AP-900LR タイプ 長さ調整用タイプ
		AP-900LH タイプ 長さ調整用タイプ
		AP-900CR タイプ 角度調整用タイプ
		AP-900CH タイプ 角度調整用タイプ
	補強材	
排水材		エンドレンフィルター (EF-3)
目地材		t=10mm

補強材設置位置凡例

設置位置	展開図	断面図
上段		
中段		
下段		

実施設計図

鹿児島県

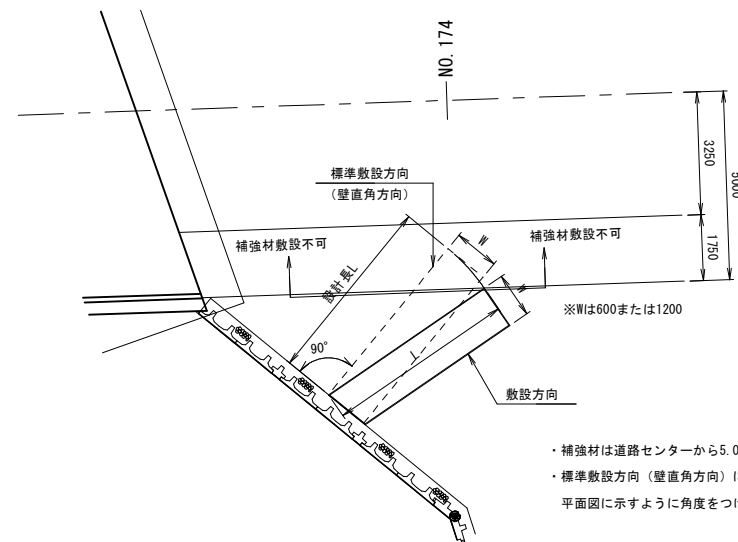
工事名	道路改築工事 (阿久根高尾野道路R8-1工区)		
路線名	一般国道504号 阿久根高尾野道路		
工事箇所	出水市	野田町	上名地内
図面種類	補強土壁工 (その10)		
縮尺	図示		
図面番号	全	72	葉 第 40 号

補強土壁工（その11）

（5号補強土壁工）

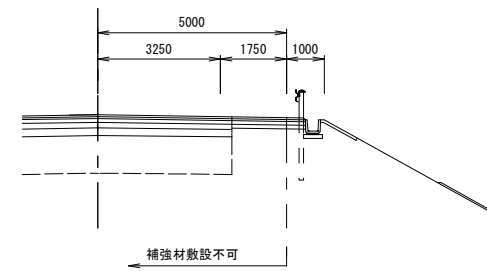
橋台背面部補強材敷設方向

平面図



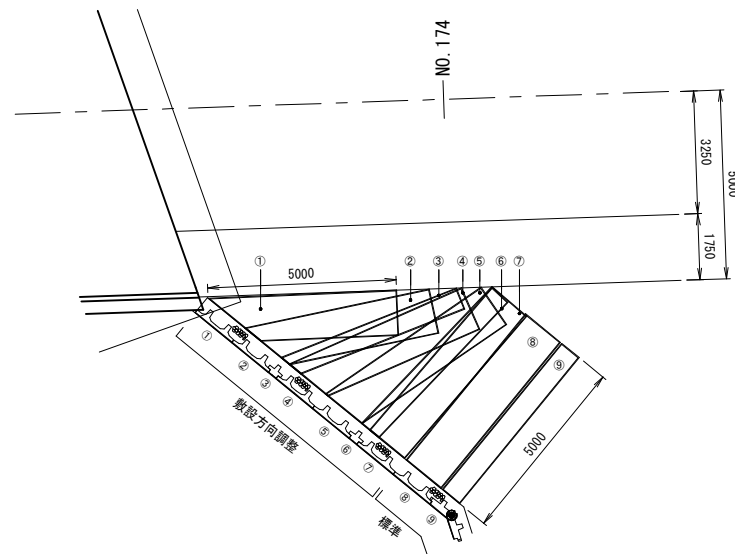
- ・補強材は道路センターから5.0mの範囲に敷設しないこと
- ・標準敷設方向（壁直角方向）に敷設すると上記範囲に補強材が入る場合は、平面図に示すように角度をつけ補強材を敷設不可範囲から外すこと。

横断図

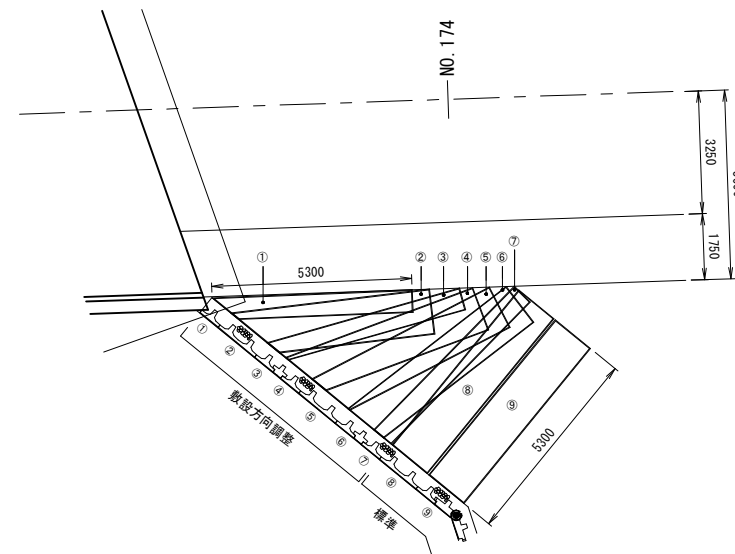


参考敷設図(1) S=1:100

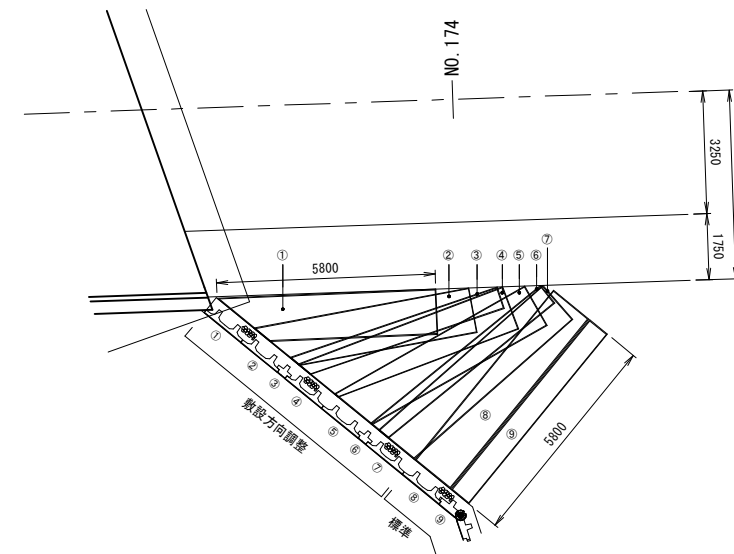
補強材長 L=5.0m



補強材長 L=5.3m



補強材長 L=5.8m



実施設計図

鹿児島県

工事名	道路改築工事 (阿久根高尾野道路R8-1工区)
河川名 路線	一般国道504号 阿久根高尾野道路
工事箇所	出水市 野田町 上名 地内
図面種類	補強土壁工（その11）
縮尺	図示
図面番号	全 72 葉 第 41 号

補強土壁工（その12）

（5号補強土壁工）

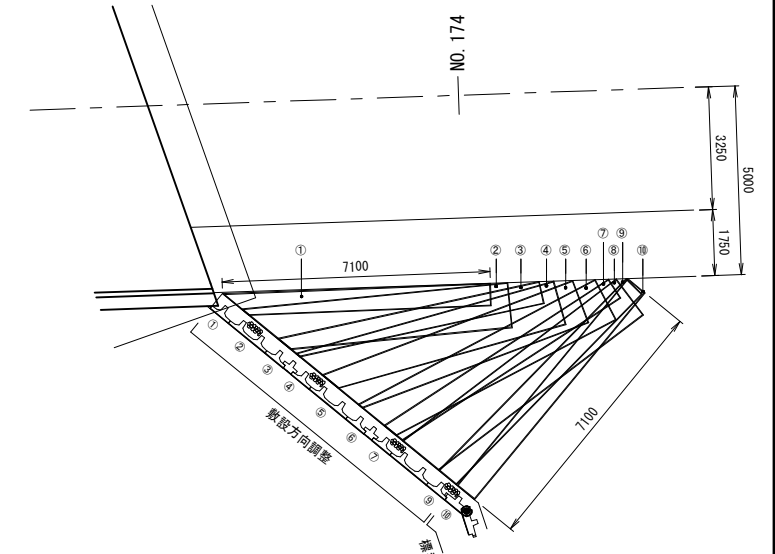
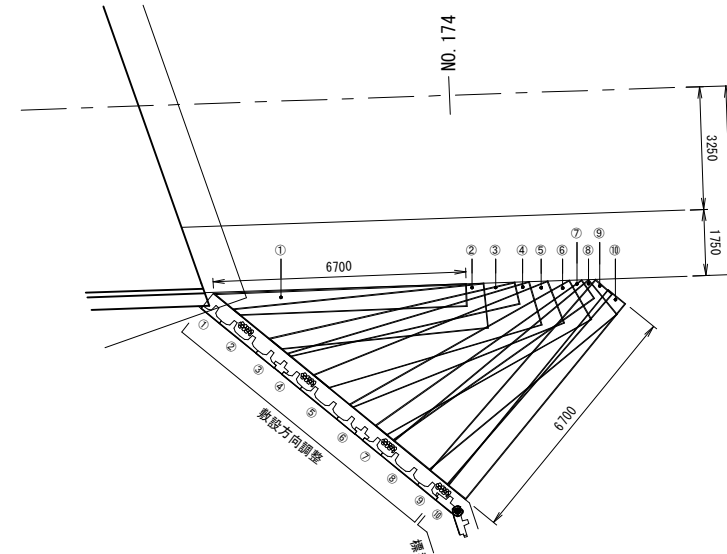
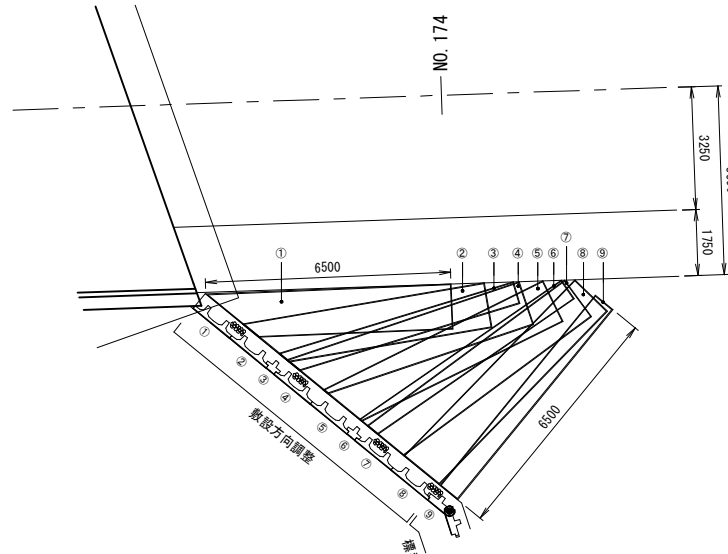
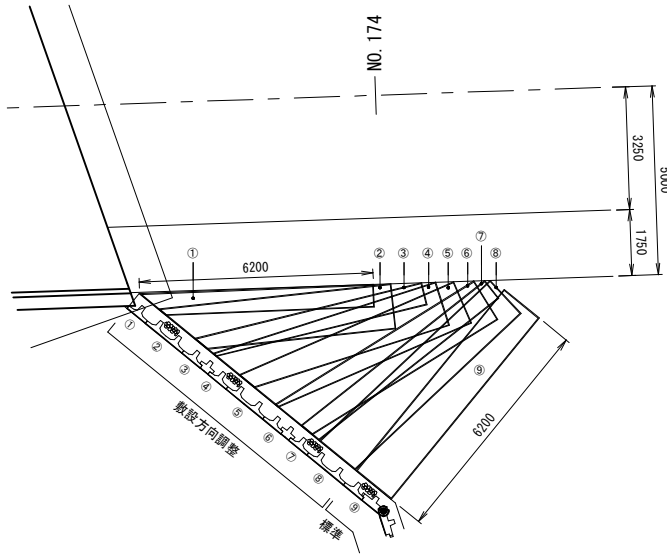
参考敷設図(2) S=1:100

補強材長 L=6.2m

補強材長 L=6.5m

補強材長 L=6.7m

補強材長 L=7.1m

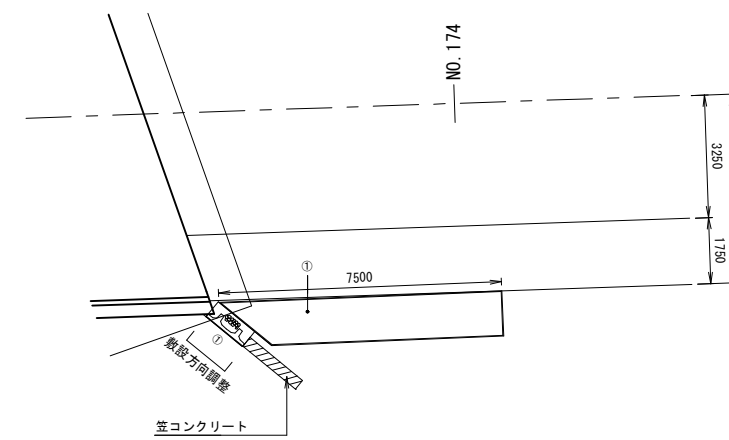
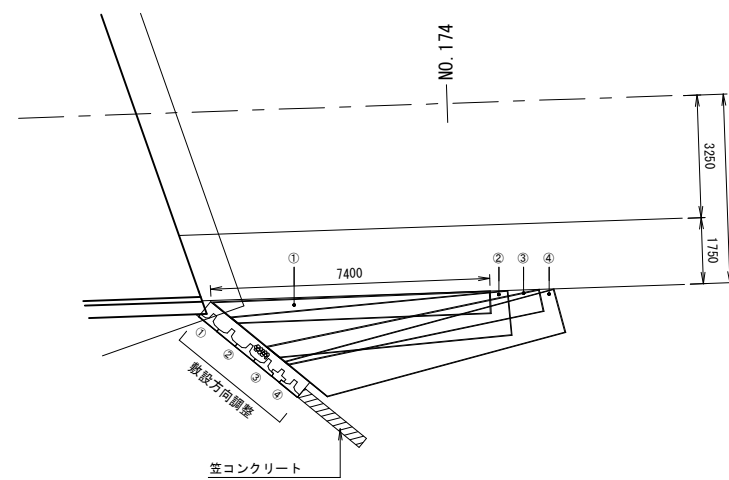
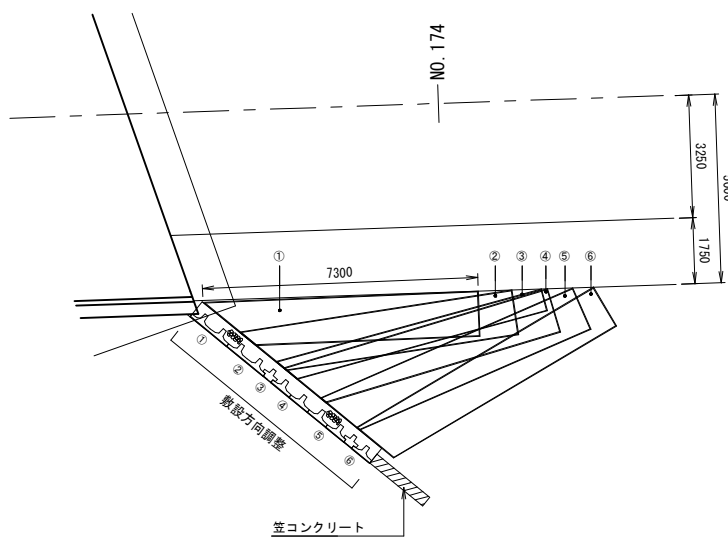


参考敷設図(3) S=1:100

補強材長 L=7.3m

補強材長 L=7.4m

補強材長 L=7.5m



実施設計図

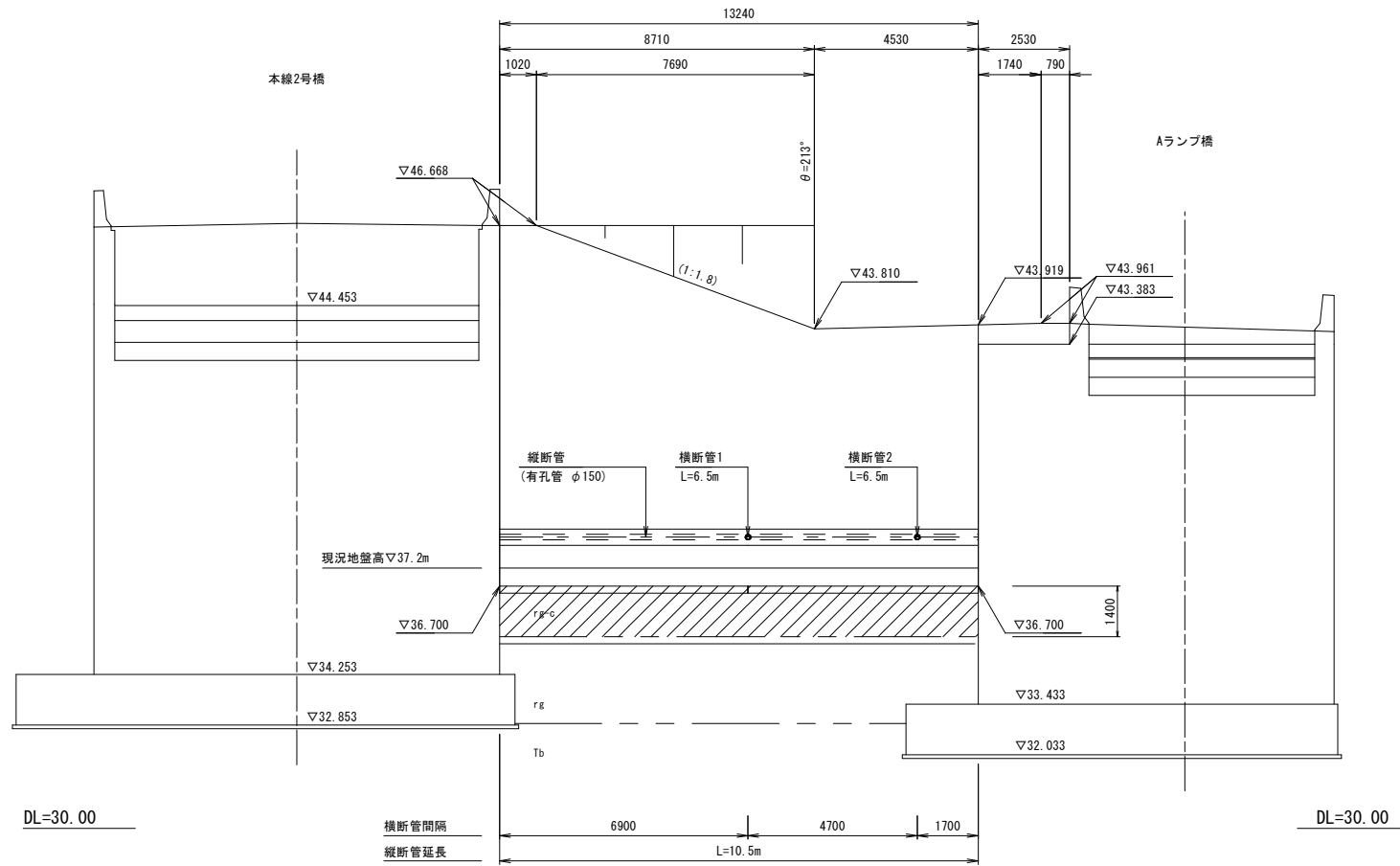
鹿児島県

工事名	道路改築工事 (阿久根高尾野道路R8-1工区)
河川名 路線	一般国道504号 阿久根高尾野道路
工事箇所	出水市 野田町 上名 地内
図面種類	補強土壁工（その12）
縮尺	図示
図面番号	全 72 葉 第 42 号

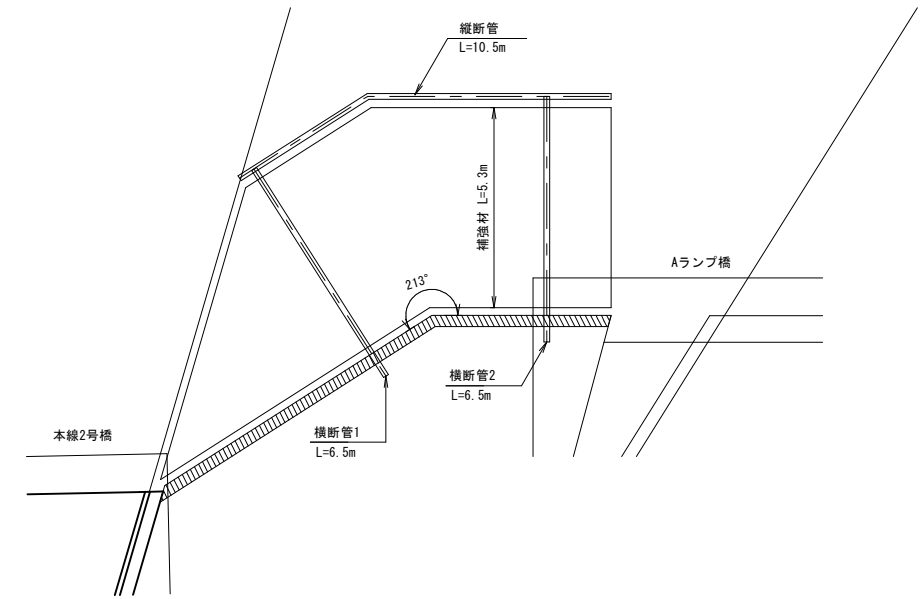
補強土壁工（その13）

（5号補強土壁工）

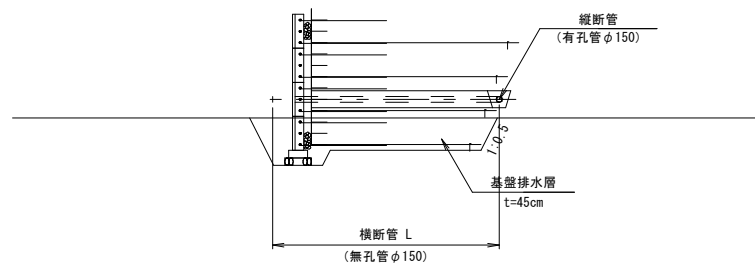
排水対策図 S=1:100



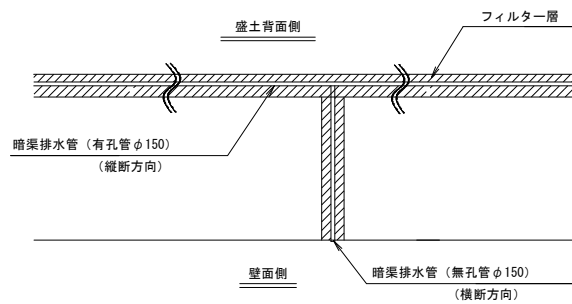
縦断管配置平面図 S=1:100



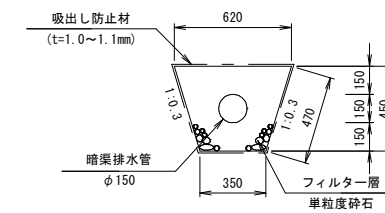
標準断面図 S=1:100



排水計画 平面図



暗渠排水管詳細図 S=1:20



実施設計図

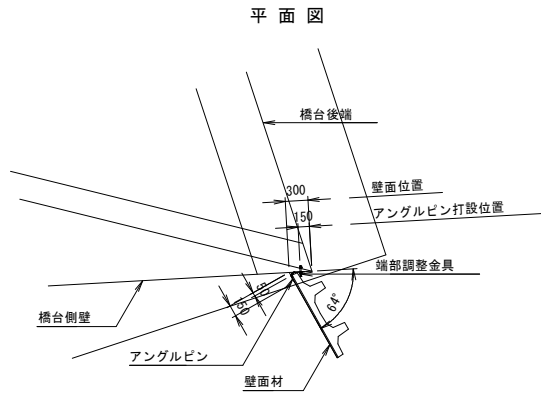
鹿児島県

工事名	道路改築工事 (阿久根高尾野道路R8-1工区)
河川名	一般国道504号 阿久根高尾野道路
工事箇所	出水市 野田町 上名 地内
図面種類	補強土壁工（その13）
縮尺	図示
図面番号	全 72 葉 第 43 号

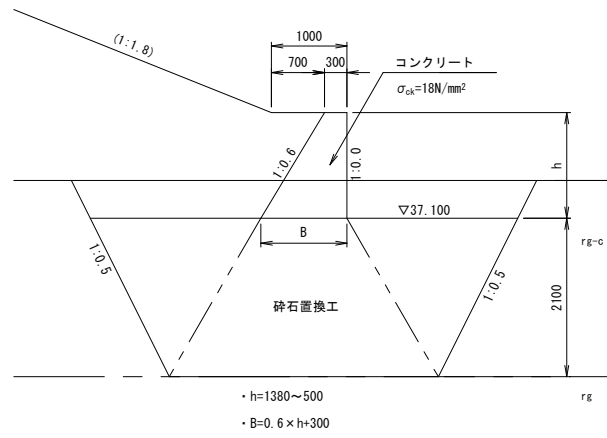
補強土壁工 (その14)

(6号補強土壁工)

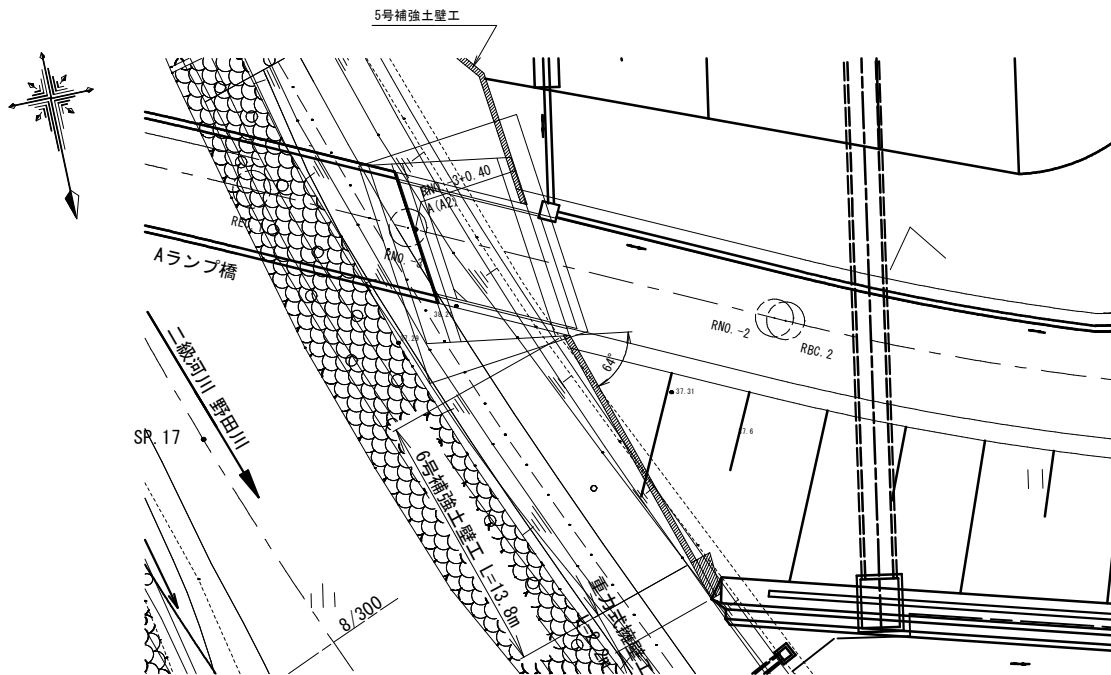
端部調整金具取付位置図 S=1:50



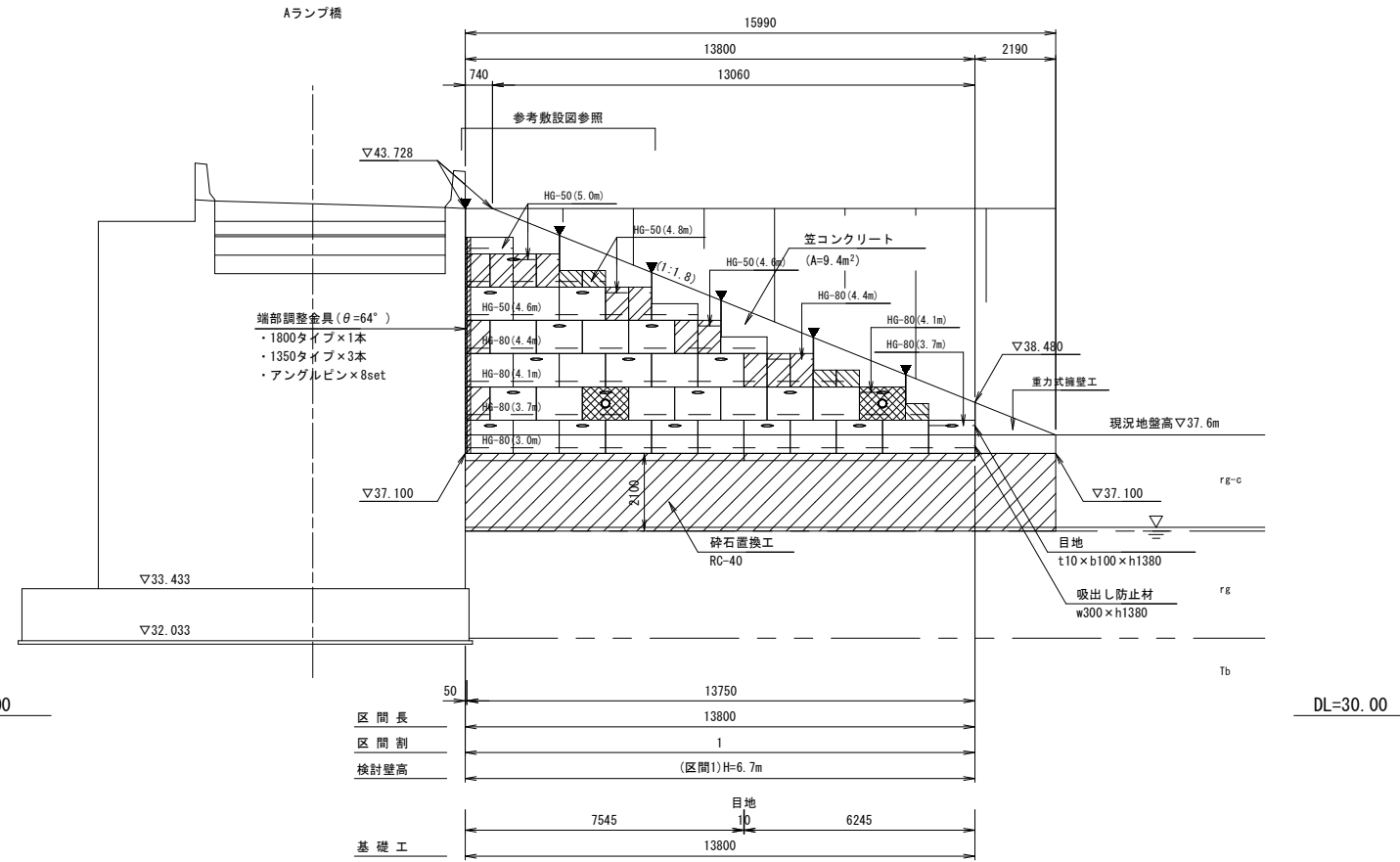
重力式擁壁工標準断面図 S=1:50



平面図 S=1:200



展開図 S=1:100



凡例

壁面材		AP-900AR タイプ (W1250×H900)
		AP-900AR 穴あきタイプ (W1250×H900)
		AP-900VH タイプ (W1250×H450)
		AP-900BH タイプ (W625×H900)
		AP-900SO タイプ (W625×H450)
補強材	-	アダム (主補強材)
排水材	-	エンドレンフィルター (EF-3)
目地材	-	t=10mm

補強材設置位置凡例

設置位置	展開図	断面図
上段		
中段		
下段		

設計条件

盛土材定数	$\gamma=19.0\text{kN/m}^3$ $\phi=30^\circ$ $C=0.0\text{kN/m}^2$	
補強材の摩擦補正係数	$\alpha_1=0.00$ $\alpha_2=1.00$	
載荷重	活荷重 $q=10\text{kN/m}^2$	
設計水平震度 (L2地震動・1種地震) (地域区分: C地域)	内的安定	$kh=0.11$
	外的安定	$kh=0.08$ ($\nu=0.7$ 考慮)
	全体安定	$kh=0.11$
安全率の種類	設計安全率	
引抜きに対する安全率	常時	$F_s \geq 2.00$
	地震時	$F_s \geq 1.20$
転倒に対する安全率	常時	$e \leq B/6$
	地震時	$e \leq B/3$
滑動に対する安全率	常時	$F_s \geq 1.50$
	地震時	$F_s \geq 1.20$
極限支持力に対する安全率	常時	$F_s \geq 3.00$
	地震時	$F_s \geq 2.00$
円弧すべりに対する安全率	常時	$F_s \geq 1.20$
	地震時	$F_s \geq 1.00$

※「アダムウォール (補強土壁) 工法設計・施工マニュアル (平成26年9月)」
 ※ 施工前に盛土材の土質試験を実施し設計定数の確認を行なうこと。

地盤反力度

区間	検討高	単位	常時	地震時
1	H=6.7m	kN/m ²	181.7	182.8
重力式擁壁	H=1.4m	"	40.6	51.5

※各断面において上記に示す値以上の許容支持力を確保すること。

実施設計図

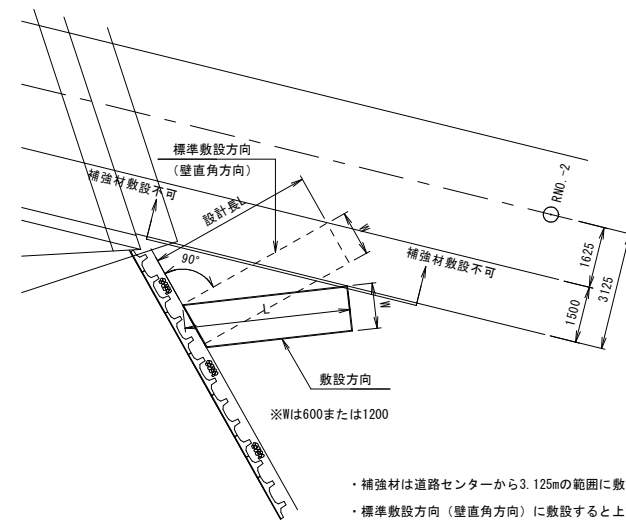
鹿児島県	
工事名	道路改築工事 (阿久根高尾野道路R8-1工区)
河川名	一般国道504号 阿久根高尾野道路
工事箇所	出水市 野田町 上名 地内
図面種類	補強土壁工 (その14)
縮尺	図示
図面番号	全 72 葉 第 44 号

補強土壁工（その15）

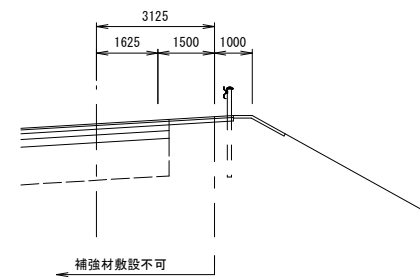
（6号補強土壁工）

橋台背面部補強材敷設方向

平面図



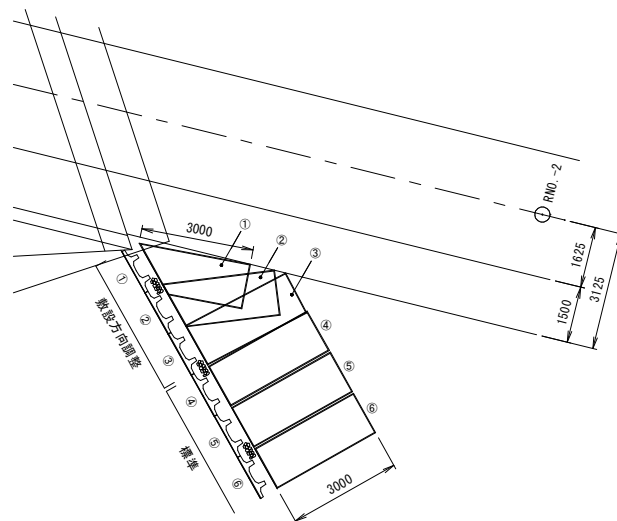
横断図



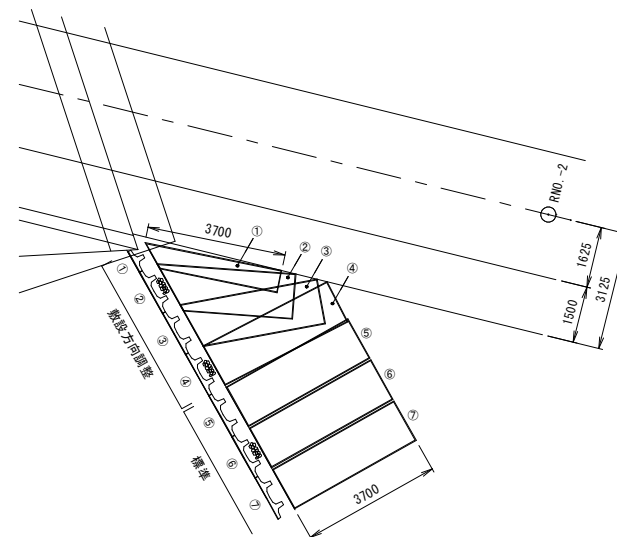
- ・補強材は道路センターから3.125mの範囲に敷設しないこと
- ・標準敷設方向（壁直角方向）に敷設すると上記範囲に補強材が入る場合は、平面図に示すように角度をつけ補強材を敷設不可範囲から外すこと。

参考敷設図(1) S=1:100

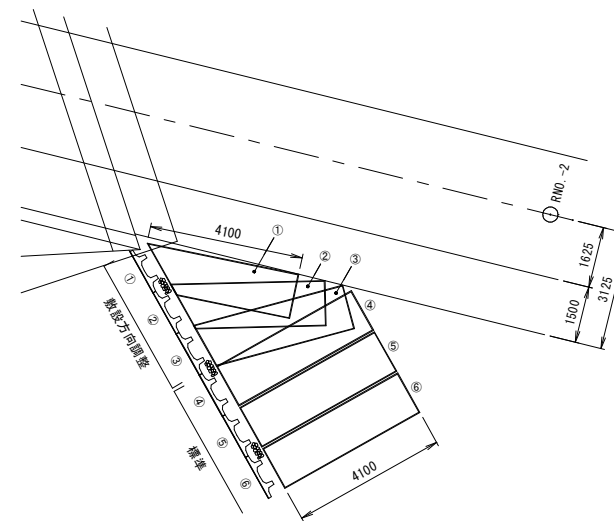
補強材長 L=3.0m



補強材長 L=3.7m



補強材長 L=4.1m



実施設計図

鹿児島県

工事名	道路改築工事 (阿久根高尾野道路R8-1工区)
河川名 路線	一般国道504号 阿久根高尾野道路
工事箇所	出水市 野田町 上名 地内
図面種類	補強土壁工（その15）
縮尺	図示
図面番号	全 72 葉 第 45 号